

標的型攻撃メール対応訓練実施キット
Webサーバ側プログラムの設定

apkit.aspxとIISの設定

標的型メール訓練を実施されるにあたり、以下のケースとなる場合は、 Webサーバ経由で開封者情報を取得することになるため、Webサーバ の用意と、Webサーバ側プログラムの設定が必要になります。

- ①Word文書添付ファイル型の訓練を実施するケース
- ②URLリンククリック型の訓練を実施するケース
- ③Exe実行ファイル添付型の訓練で、開封者情報のメールを訓練実施対象者（添付ファイル開封者）のPC上から送付する代わりに、
Webサーバ経由で送付する運用とするケース

【設定手順】

- Webサーバを用意します。

Webサーバといっても、特別にハードウェアを用意する必要はありません。今お使いのWindows7パソコンが1台あれば十分に訓練を実施することができます。もちろん、既にWebサーバをお持ちなら、そちらをご利用いただいてもよいです。

Windowsパソコンをお使いになる場合は、IISというWebサーバソフトが標準で使えるようになっていますので、IISと、キットに付属のaptkit.aspxの組み合わせをお使い頂くのが、最も簡便です。

なお、Windowsパソコンを使わず、レンタルサーバなどをを利用してWebサーバを用意される場合、Windows Azureなど、ASP.NETが使えるWebサーバであれば、aptkit.aspxをお使い頂くことができますが、Apacheを使用したWebサーバなど、ASP.NETが使えないWebサーバをご利用である場合は、aptkit.aspxの代わりに、aptkit.phpをご利用いただくことになります。

ちなみに、ASP.NET並びに、PHPのどちらも使うことができないWebサーバである場合は、キットではご利用いただけませんので、この場合は、お手持ちのパソコンを利用されるなど、別のWebサーバをご用意ください。

- Webサーバにプログラムを設置します。
- Webサーバ経由で開封者情報を取得できるようにします。

Webサーバ（IIS）を用意する

ここでは、お手持ちのパソコン（Windows7以降のWindowsパソコン）にIISをインストールする手順について説明します。と言っても、難しくはありません。マウスで操作していくだけですので、作業はすぐに終わります。

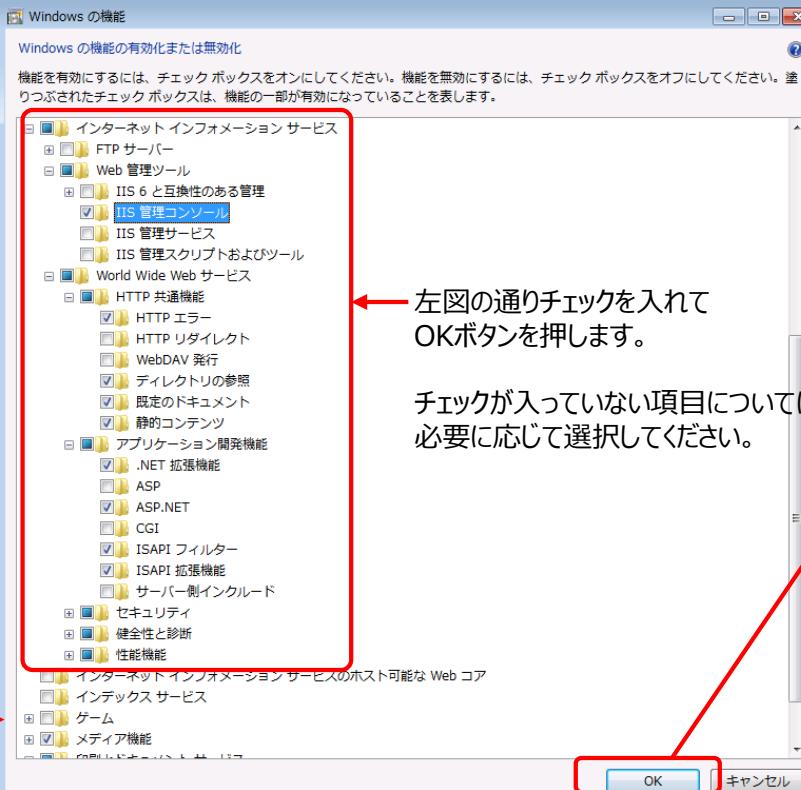
- ①コントロールパネルから「プログラムと機能」を選択します。



- ②「Windowsの機能の有効化または無効化」を選択します。

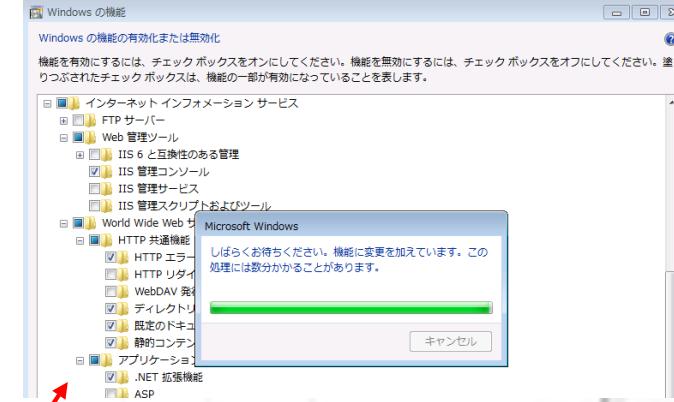


- ③インターネットインフォメーションサービスに関する項目を選択してOKボタンを押します。

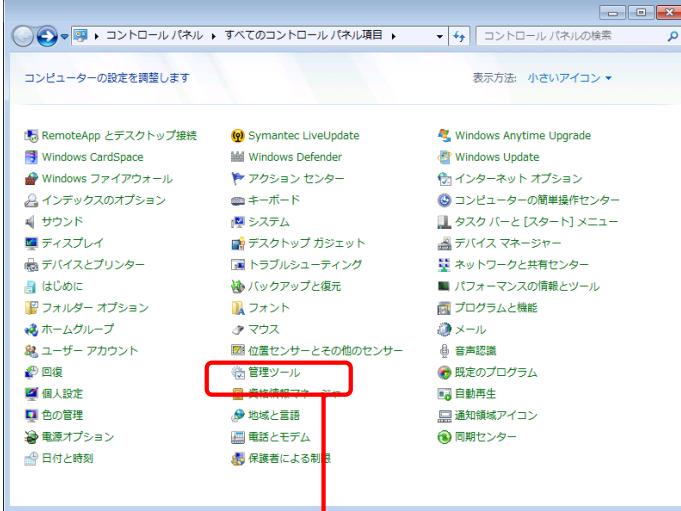


- ④OKボタンを押すとIISがインストールされます。

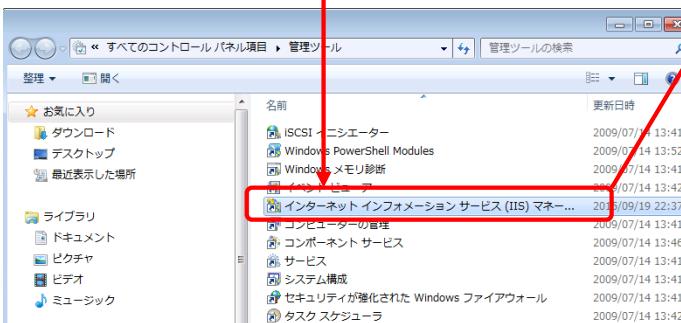
※マシンの性能によってインストールにかかる時間は異なります。



⑤IISのインストールが完了したら、コントロールパネルから「管理ツール」を選択します。



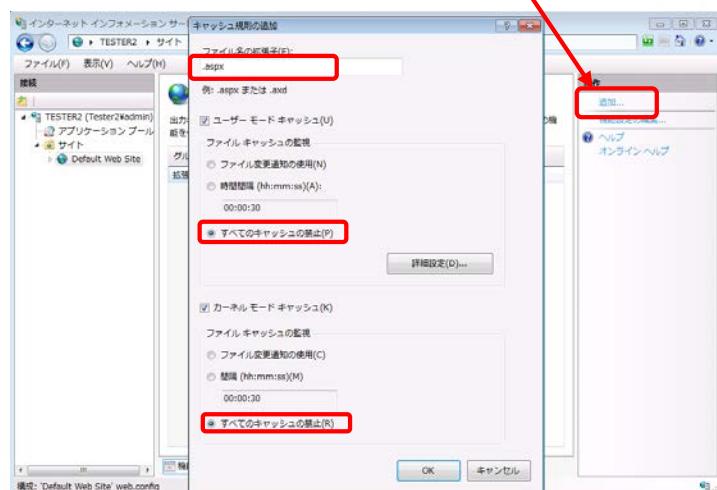
⑥管理ツールの一覧の中から「IISマネージャー」を選択します。



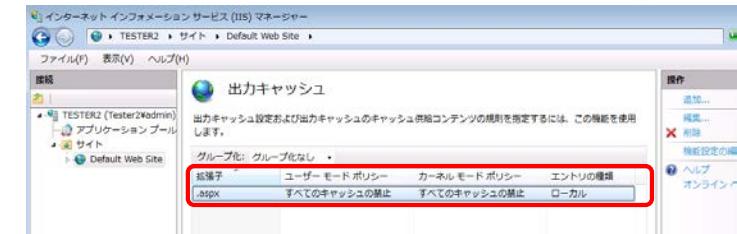
⑦「IISマネージャー」の管理コンソール画面が表示されますので、「Default Web Site」を選択し、さらに「出力キャッシング」を選択します。



⑧「出力キャッシング」の設定画面で「追加」をクリックすると、「キャッシング規則の追加」ダイアログが表示されますので、ファイル名の拡張子に「.aspx」と入力し、ユーザー モード キャッシュ、カーネルモード キャッシュのどちらも、「すべてのキャッシングの禁止」を選択してOKボタンを押します。



⑨出力キャッシングが以下のように追加されます。



⑩出力キャッシングの設定まで終われば、IISの設定は完了です。IISが正しく設定されているかを確認するため、Webブラウザを起動し、<http://localhost/>にアクセスしてみてください。

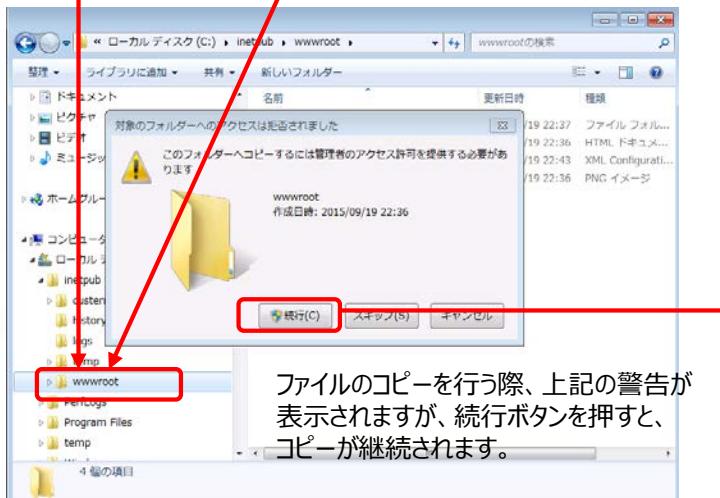
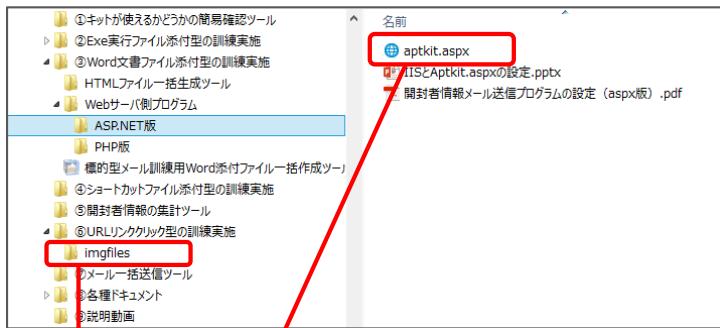
IIS7であれば、以下の画面が表示されるはずです。



以上でIISの設定は完了です。
続いて、aptkit.aspxの設定を行います。

Aptkit.aspxを設定する

①キットに付属の「Webサーバ側プログラム」のフォルダ配下にある aptkit.aspxと、「URLリンククリック型の訓練実施」フォルダ配下にある、attention.htmlとimgfilesフォルダを、IISのルートフォルダである、C:¥inetpub¥wwwroot配下にコピーします。

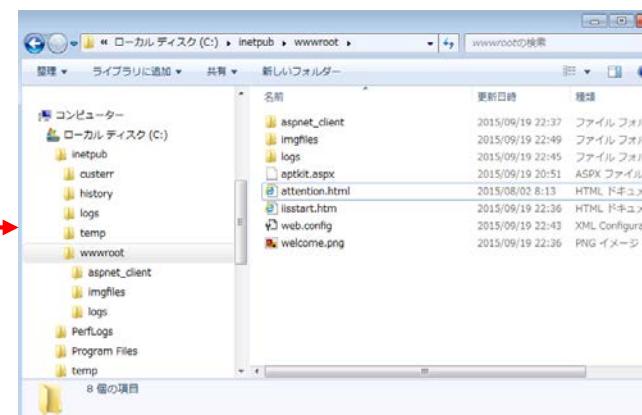


ファイルのコピーを行う際、上記の警告が表示されますが、続行ボタンを押すと、
コピーが継続されます。

③②まで完了したら、Webブラウザを起動し、<http://localhost/attention.html>にアクセスします。
設定に問題がなければ、以下のような画面が表示されるはずです。

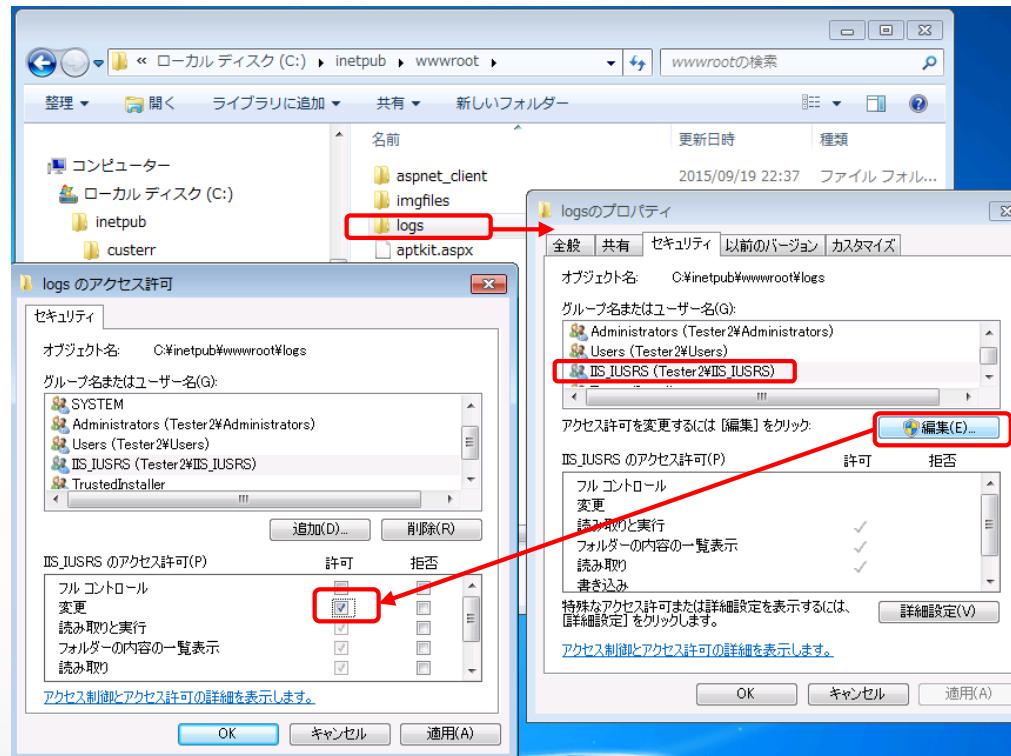


②ファイルのコピーが完了すると、
以下のようにになっているはずです。

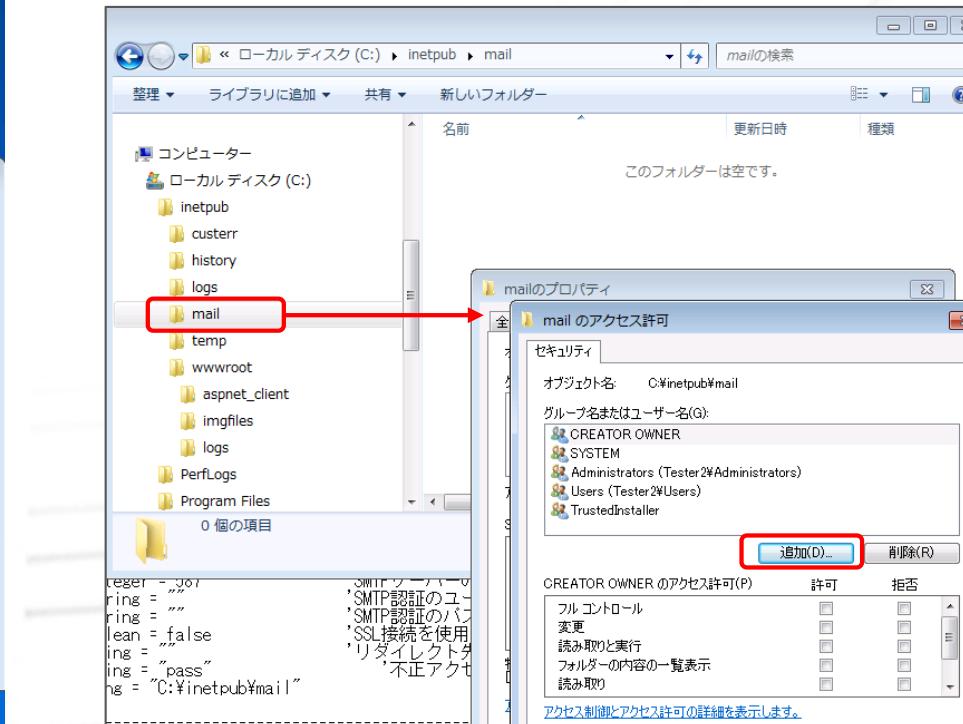


ログ記録用フォルダとメール保存用フォルダを設定する

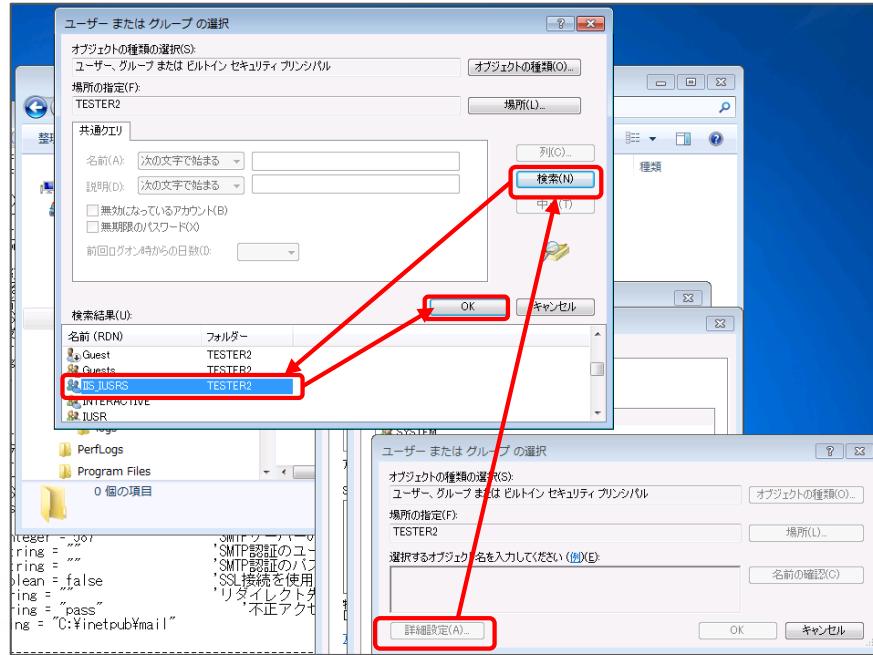
④③の確認まで完了したら、c:¥inetpub¥wwwrootフォルダ配下に「logs」ディレクトリを作成し、フォルダのプロパティ設定ダイアログ画面を表示させて、IIS_IUSRSに変更権限を付与します。



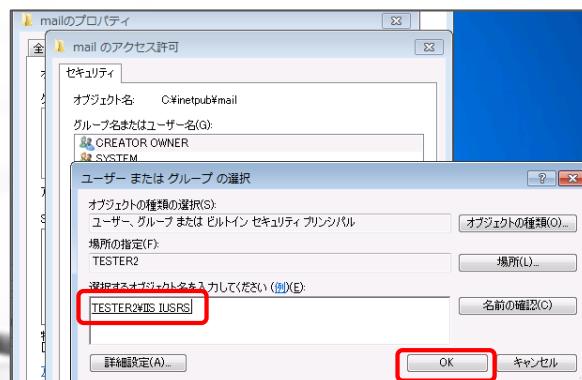
⑤④と同様にして、c:¥inetpubフォルダ配下に「mail」ディレクトリを作成し、フォルダのプロパティ設定ダイアログ画面を表示させて、IIS_IUSRSに変更権限を付与します。但し、mailディレクトリを作成した段階では、IIS_IUSRSにフォルダへのアクセス権限が付与されていないため、IIS_IUSRSの追加を行います。



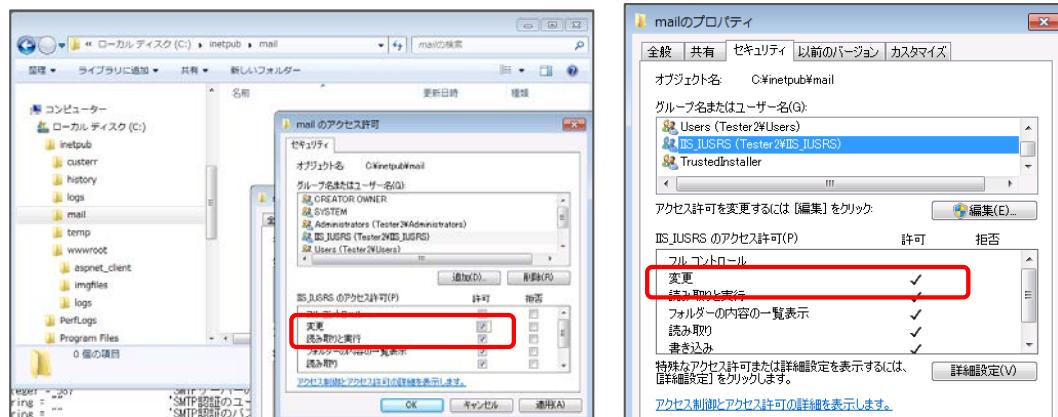
⑥IIS_IUSRSをフォルダにアクセス可能なユーザーとして追加するには、「ユーザーまたはグループの選択」ダイアログで「詳細設定」ボタンを押し、「検索」ボタンを押します。すると、検索結果の一覧にIIS_IUSRSが表示されるので、これを選択してOKボタンを押します。



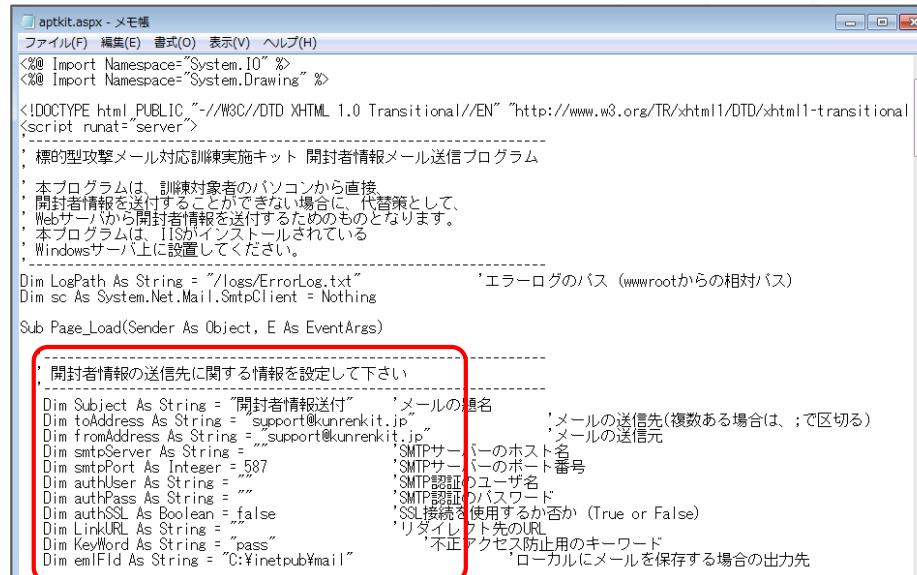
⑦以下のように、IIS_IUSRSがダイアログに追加されたら、OKボタンを押します。



⑧④と同様の手順で、mailフォルダについて、IIS_IUSRSに変更権限を付与します。



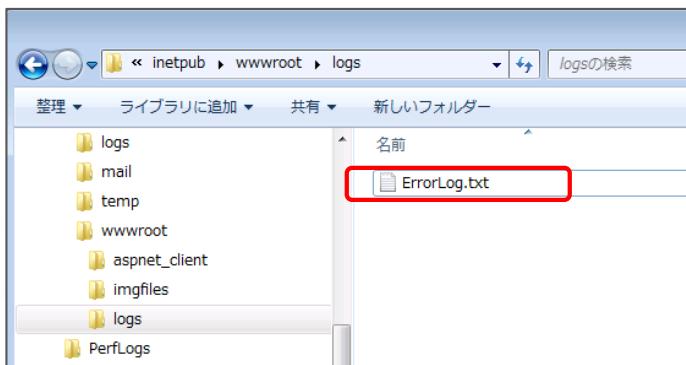
⑨aptkit.aspxをメモ帳などのテキストエディタで開き、以下の記述となっていることを確認します。



⑩Webブラウザを起動し、<http://localhost/aptkit.aspx?apps=test&kw=tes> にアクセスします。すると、以下のような画面が表示されるはずです。

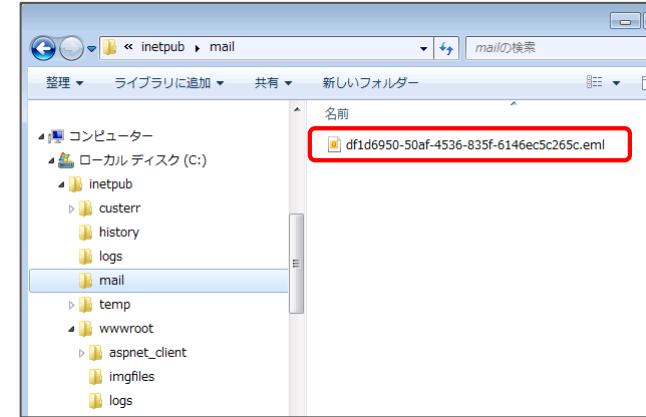


⑪「c:¥inetpub¥wwwroot¥logs」フォルダ配下に、ErrorLog.txtが
出力されていることを確認します。



以上までの確認が無事完了すると、aptkit.aspxの基本的な設定は完了となります。開封者情報のメールをemlファイルとしてサーバ上に保管する形式で
よければ、この状態で標的型メール訓練を実施することができますが、開封者情報のメールが指定のアドレス宛に届くようにするには、引き続き、次ページ以降に
示す設定を行ってください。

⑫「c:¥inetpub¥mail」フォルダ配下に、拡張子が.emlのファイルが
出力されていることを確認します。

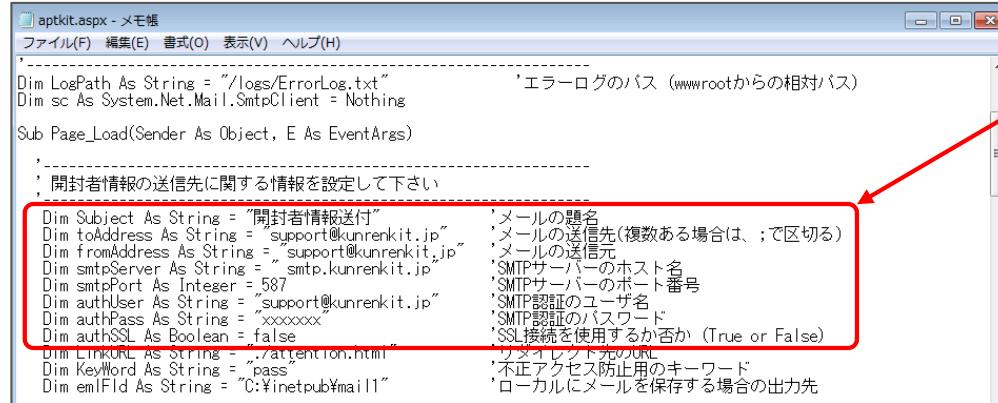


※拡張子が.emlのファイルは、eml形式で保存された開封者情報の
メールになります。このemlファイルは、キットに付属の
「emlファイル取り込みツール」を使って、同じくキットに付属の
「開封者情報集計ツール」に取り込みが可能なデータに変換することで、
訓練メールに添付したWord文書ファイルを開いたり、メール本文中の
URLをクリックしたユーザが誰であるか？を集計することができます。

開封者情報のメールを指定の宛先に送信するよう設定する

aptkit.aspxでは、SMTPサーバーを利用して、開封者情報のメールを指定のアドレス宛に送信することができます。

開封者情報のメールが指定のアドレス宛に届くようにするには、aptkit.aspxにおいて、以下の設定を行います。



```
aptkit.aspx - メモ帳
ファイル(F) 編集(E) 書式(O) 表示(V) ヘルプ(H)
'
Dim LogPath As String = "/logs/ErrorLog.txt"           'エラーログのパス (wwwrootからの相対パス)
Dim sc As System.Net.Mail.SmtpClient = Nothing
Sub Page_Load(Sender As Object, E As EventArgs)
    '
    ' 開封者情報の送信先に関する情報を設定して下さい
    '
    Dim Subject As String = "開封者情報送付"
    Dim toAddress As String = "support@kunrenkit.jp"
    Dim fromAddress As String = "support@kunrenkit.jp"
    Dim smtpServer As String = "smtp.kunrenkit.jp"
    Dim smtpPort As Integer = 587
    Dim authUser As String = "support@kunrenkit.jp"
    Dim authPass As String = "xxxxxx"
    Dim authSSL As Boolean = False
    Dim LNKURL As String = "./attention.html"
    Dim Keyword As String = "pass"
    Dim emlFlg As String = "C:\inetpub\mail11"
    '
    ' メールの題名
    ' メールの送信先(複数ある場合は、;で区切る)
    ' メールの送信元
    ' SMTPサーバーのホスト名
    ' SMTPサーバーのポート番号
    ' SMTP認証のユーザ名
    ' SMTP認証のパスワード
    ' SSL接続を使用するか否か (True or False)
    ' ワンオレクト元のURL
    ' 不正アクセス防止用のキーワード
    ' ローカルにメールを保存する場合の出力先
'
```

この部分の設定を変更します。

設定する情報については、メールソフトで設定している情報と同じものを指定します。

なお、wwwroot配下のファイルについては、デフォルトでは直接編集して保存することができないようになっていますので、編集したaptkit.aspxについては別のフォルダに保存し、ファイルエクスプローラーでwwwrootフォルダ配下のaptkit.aspxに上書きコピーします。

Subject	開封者情報のメールの題名を設定します。変更する必要がなければデフォルトのままで結構です。
toAddress	開封者情報メールの送信先となるメールアドレスを設定します。複数の宛先に送付する場合はアドレスをセミコロン「;」で区切ってください。
fromAddress	開封者情報メールの送信元となるメールアドレスを設定します。
smtpServer	メール送信に使用するSMTPサーバーのホスト名を設定します。
smtpPort	メール送信に使用するSMTPサーバーのポート番号（25、465、587など）を設定します。
authUser	メール送信にSMTP-AUTHが必要となる場合は、SMTP-AUTHに使用するUser名を設定します。
authPass	authUserで設定したUser名に対するパスワードを設定します。
authSSL	メール送信にSSL接続が必要である場合は「True」にします。メール送信に失敗する場合は、この設定を変えてみて下さい。

開封者情報メールの送信確認方法

Webブラウザを起動し、<http://localhost/aptkit.aspx?apps=test&kw=tes> にアクセスします。すると、c:\inetpub\mailフォルダ配下にemlファイルが作成される代わりに、開封者情報のメールが、指定した宛先に届くはずです。



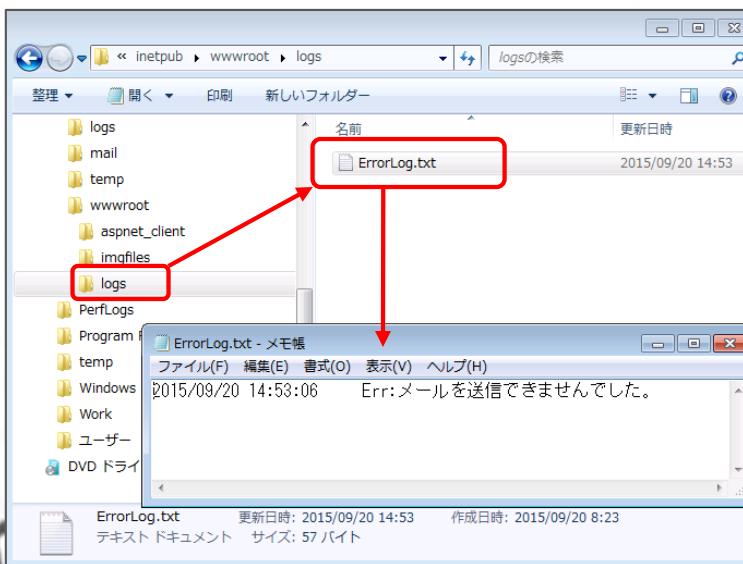
もしメールが届かない場合は、c:\inetpub\wwwroot\logs>ErrorLog.txtにエラーが出力されているかどうかを確認してください。

【よくある間違い】

- authSSLの設定で、「true」とすべきところを「false」に設定している。（もしくはこの逆）
- smtpPortに設定すべきポート番号を間違えている。（587と指定すべきところを25に設定しているなど）
- SMTPサーバ側で、外部アプリケーションからのメール送信を許可する設定をしていない。（Gmailを使う場合など）
- fromAddressに、SMTPサーバ側では受け入れできないアドレスを設定している。
- SMTP-AUTHの設定（authUser, authPass）を間違えている。

※開封者情報メールの送信がどうしてもうまくいかない場合は、まず、aptkit.aspxを設置しているPC上で、OutLookやThunderbirdなどの通常のメールソフトを使って、メール送信が正しくできることを確認してください。

通常のメールソフトでのメール送信が正しく行えるのであれば、メールソフトの設定画面で設定した内容と同じ情報をaptkit.aspxに設定すれば、メール送信が行えるはずです。



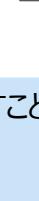
Aptkit.aspxの使い分けについて

aptkit.aspxでは、以下の3つの用途に対応しています。それぞれの使い分けは、URLに設定する第一パラメータによって行います。なお、URLの第二パラメータに指定するkwd=passについては、いずれのパターンでも共通の設定となります。

passの部分は、aptkit.aspxのKeyWordで設定した文字列と同じ文字列を設定します。

また、以下において、xxxxの部分は任意の文字列を指定できます。このxxxxの部分が、開封者を特定するキー情報となります。URLエンコードした文字列を使えば、日本語などの2バイト文字を指定することもできますが、英数文字を使うのが無難です。

```
'-----  
' 開封者情報の送信先に関する情報を設定して下さい  
'-----  
Dim Subject As String = "開封者情報送付"  
Dim toAddress As String = "support@kunrenkit.jp"  
Dim fromAddress As String = "support@kunrenkit.jp"  
Dim smtphServer As String = "smtp.kunrenkit.jp"  
Dim smtpPort As Integer = 587  
Dim authUser As String = "support@kunrenkit.jp"  
Dim authPass As String = "xxxxxxxx"  
Dim authSSL As Boolean = False  
Dim LinkURL As String = ".attention.html"  
Dim KeyWord As String = "pass"  
Dim emlId As String = "0000pubmail"  
'-----  
' メールの題名  
' メールの送信先(複数ある場合は、;で区切る)  
' SMTPサーバーのホスト名  
' SMTPサーバーのポート番号  
' SMTP認証のユーザー名  
' SMTP認証のパスワード  
' SSL接続を使用するか否か (True or False)  
' リダイレクト先のURL  
' 不正アクセス防止用のキーワード  
' ローカルにメールを保存する場合の出力先
```



①Word文書添付ファイル型の訓練を実施するケース

Word文書ファイル添付型では、Webビーコン画像を返すことになりますので、Webビーコン画像を返却するには、以下の形式のURLを用います。

http://webサーバのアドレス/apkit.aspx?apps=xxxx&kwd=pass

※第一パラメータに「apps」と指定すると、1×1ドットのpng画像が返却されます。

②URLリンククリック型の訓練を実施するケース

URLリンククリック型では、リンクをクリックした先のページやファイル（zipファイルなど）を返却する（リダイレクトする）ことになりますので、以下の形式のURLを用いると共に、apkit.aspxにおいて、LinkURLにリンク先となるURLを設定します。

http://webサーバのアドレス/apkit.aspx?user=xxxx&kwd=pass

※第一パラメータに「apps」もしくは「data」以外の文字列、例えば「user=」や「ret=」などを使用すると、LinkURLに設定したURLにリダイレクトされます。

③Exe実行ファイル添付型の訓練で、開封者情報のメールを訓練実施対象者（添付ファイル開封者）のPC上から送付する代わりに、Webサーバ経由で送付する運用とするケース

キットに付属の模擬マルウェアプログラム（exe実行ファイル）では、Webサーバ経由で開封者情報のメールを送信することができます。この場合のURLは、既に模擬マルウェアプログラム側に組み込まれているため、意識する必要はありませんが、参考情報として、以下の形式のURLを使用すると、空のページが返却されます。

http://webサーバのアドレス/apkit.aspx?data=xxxx&kwd=pass

※第一パラメータに「data」と指定すると、空のHTMLファイルが返却されます。

※URLがhttp://webサーバのアドレス/apkit.aspxだけでは、第一パラメータと第二パラメータの設定がない場合はビーコン画像のみ返却され、メールの送信は行われません。

Attention.htmlについて

URLリンククリック型の訓練では、URLリンクをクリックした際に表示するWebページや、ダウンロードファイルが必要になりますが、これを全く何もない状態から用意するのは面倒です。そこでキットでは、URLリンクがクリックされた際に表示するWebページ画面として、標的型メールに関する教育用のコンテンツの雛形（attention.html）をご提供しています。

雛形では、訓練についての問い合わせ先を記載する箇所を設けてありますので、attention.htmlを利用される際は、メモ帳やHTMLエディタなどを使って、問い合わせ先の部分を適宜修正した上でご利用ください。なお、attention.htmlの内容については、自由に改編してご利用いただけます。但し、著作権フリーではありませんので、ご利用いただける範囲は、貴社内でのご利用に限定されることをご留意ください。

これは標的型メールの訓練

localhost/attention.html

標的型攻撃メールの怖さを知っていますか？

標的型攻撃メールは、特定の企業を狙って顧客情報や重要な社内情報を盗み取る、また、社内システムに侵入して業務を継続できないようにしてしまうなど、会社に甚大な被害をもたらすものです。

あなたが今、聞いたメールは、この「標的型攻撃メール」による攻撃の手口の一例を模した訓練用のメールです。

今回は訓練なので本物ではありませんが、もし、これが本当の標的型攻撃メールであった場合は、あなたのパソコンがコンピュータウイルスに感染し、社内に甚大な被害をもたらすきっかけとなっていたかもしれません。標的型攻撃のターゲットになるのは、なにも政府や軍事関連の組織ばかりではありません。当社もその標的とされる可能性は十分あります。「ウチの会社には関係ない話」ではないのです。

あなたの元に、いつ、本物の標的型攻撃メールが送られてきたとしても不思議ではありません。今回の訓練をきっかけに、標的型攻撃メールについて理解し、うっかり被害に遭ってしまうことのないよう、受け取ったメールが標的型攻撃メールでないかどうか、常に注意を怠らないようにして下さい。

【注意しましょう！】

会社に被害をもたらすことを目的としたコンピュータウイルスが添付されていたり、また、コンピュータウイルスに感染させるためのサイトに誘導するためのURLリンクが記載されているなどの、いわゆる悪意を持ったメール（標的型攻撃メール）が、いつ私達の元に送られてきても不思議ではありません。以降に記載されている「気づきポイント」をよく読んで、標的型攻撃メールにうっかり引っかかってしまうことのないよう、くれぐれも注意して下さい。

本訓練についてのお問い合わせ先
システム部IT企画課 標的型攻撃メール対応訓練実施担当
田中一郎、佐々木次郎
Tel. 03-xxxx-xxxx メール、Kunren-sys@xxxxx.co.jp

attention.html - メモ帳

```
<p>あなたの元に、いつ、本物の標的型攻撃メールが送られてきたとしても不思議ではありません。今回の訓練をきっかけに、標的型攻撃メールについて理解し、うっかり被害に遭ってしまうことのないよう、受け取ったメールが標的型攻撃メールでないかどうか、常に注意を怠らないようにして下さい。
```

あなたの元に、いつ、本物の標的型攻撃メールが送られてきたとしても不思議ではありません。今回の訓練をきっかけに、標的型攻撃メールについて理解し、うっかり被害に遭ってしまうことのないよう、受け取ったメールが標的型攻撃メールでないかどうか、常に注意を怠らないようにして下さい。

```
<div style="margin-top:30px">
<h2 style="text-align:center;text-decoration:none"><font class="t1">【注意しましょう！】</font></h2>
<p style="margin:0 20px 0 20px">会社に被害をもたらすことを目的としたコンピュータウイルスが添付されていたり、また、コンピュータウイルスに感染させるためのサイトに誘導するためのURLリンクが記載されているなどの、いわゆる悪意を持ったメール（標的型攻撃メール）が、いつ私達の元に送られてきても不思議ではありません。以降に記載されている「気づきポイント」をよく読んで、標的型攻撃メールにうっかり引っかかってしまうことのないよう、くれぐれも注意して下さい。

```
<div class="round" style="display:block;margin-left:auto;margin-right:auto;width:50%;padding:20px;border-width:1px; border-color:#000000">
<strong style="color:#000000">本訓練についてのお問い合わせ先

システム部IT企画課 標的型攻撃メール対応訓練実施担当

田中一郎、佐々木次郎

Tel. 03-xxxx-xxxx メール、Kunren-sys@xxxxx.co.jp

</div>
```



```
<div class="round" style="width:97%;padding:0px 15px 25px 15px; border-width:1px; border-color:#EE0000">
<h2>標的型攻撃メールのパターン</h2>
<p>「標的型攻撃メール」には主に以下の3つのパターンがあります。</p>
```


```

メモ帳やHTMLエディタなどでこの部分を適宜書き換えます。

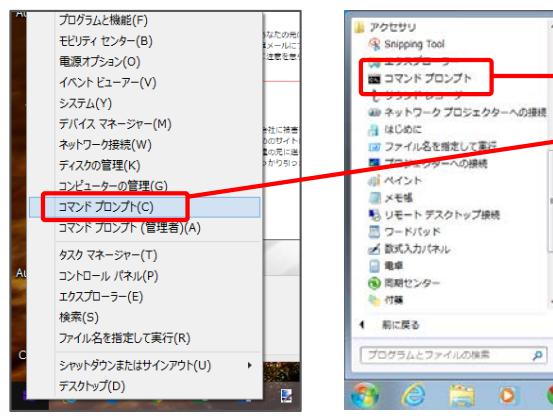
他のパソコンからWebサーバへのアクセスについて

前ページまでの設定については、Webサーバを設定したパソコン上での作業を想定しているため、URLを「`http://localhost/aptkit.aspx?~`」としましたが、実際の訓練では、他のパソコンからWebサーバにアクセスが発生することになるため、「`http://localhost/aptkit.aspx?~`」は使うことができません。

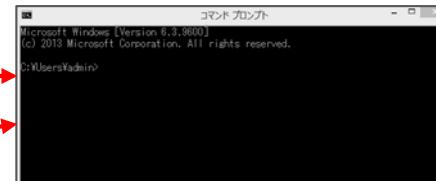
このため、他のパソコンからWebサーバにアクセスするには、IPアドレスでアクセスさせるか、DNSやWINSによって、ホスト名でWebサーバにアクセスすることができるようになっている場合は、ホスト名でアクセスさせるようにします。

なお、Webサーバを設定したパソコンのIPアドレスがわからない場合には、以下の手順で調べることができます。

①コマンドプロンプトを起動します。

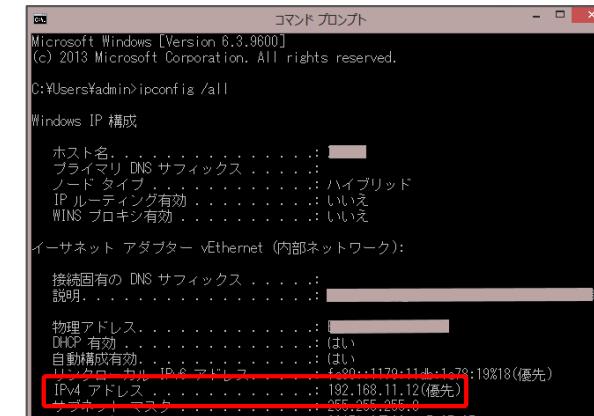


↑ Windows8.1以降



↑ Windows7

②ipconfig とタイプしてリターンキーを押します。



↑上記赤枠部分が、割り当てられているIPアドレスになります。

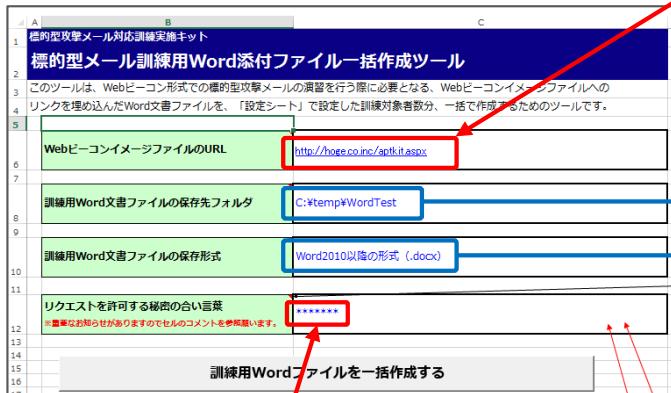
ちなみに、通常の業務でお使いのパソコンをWebサーバとして使用する場合、お使いのパソコンのIPアドレスが、DHCPによって動的に割り当てられているケースが多いと思います。パソコンの電源を入れなおすことで、パソコンに割り当てられるIPアドレスが変わってしまうと、訓練実施前はWebサーバにアクセスできたのに、訓練を実施したらWebサーバにアクセスができなくなってしまった。ということが起こりますので、DHCPによって動的にIPアドレスが割り当てられるパソコンをWebサーバとしてお使いになられる場合は、この点にご留意ください。

Word文書ファイル添付型の訓練実施方法

Word文書ファイル添付型の訓練を実施するには、「<http://webサーバのアドレス/aptkit.aspx?apps=xxxx&kwu=pass>」形式のURLを設定したWebビーコン画像を埋め込んだWord文書ファイルを、訓練実施対象者毎に作成し、これを訓練メールに添付する形で実施します。

①訓練メールに添付するWord文書ファイルの作成

Webビーコン画像を埋め込んだWord文書ファイルの作成には、キットに付属の「Word添付ファイル一括作成ツール」を用います。このツールを使うことで、apps=xxxxのxxxxの部分を訓練実施対象者毎に変えたWord文書ファイルを一括して作成することができます。



http://webサーバのアドレス/aptkit.aspxをWebビーコンイメージファイルのURLとして設定します。

ツールが生成するWord文書ファイルの保存先は以下になります。

C:\temp\wordtest\test01.docx

```
Dim LogPath As String = "/logs/ErrorLog.txt" 'エラーログのパス (wwwrootからの相対パス)
Dim ssc As System.Net.Mail.SmtpClient = Nothing
Sub Page_Load(Sender As Object, E As EventArgs)
    '開封者情報の送信先に関する情報を記載して下さい
    Dim Subject As String = "開封者情報付"
    Dim ToAddress As String = "support@unikenkit.jp" 'メールの件名
    Dim FromAddress As String = "support@unikenkit.jp" 'メールの送信元
    Dim SmtpServer As String = "smtp.unikenkit.jp" 'メールサーバーのホスト名
    Dim SmtpPort As Integer = 587 'SMTPサーバーのポート番号
    Dim authUser As String = "support@unikenkit.jp" 'SMTP認証のユーザー名
    Dim authPass As String = "xxxxxx" 'SMTP認証のパスワード
    Dim authSSL As Boolean = False 'SSL接続を使用するか否か (True or False)
    Dim LinkURL As String = "http://wwwroot/unikenkit.on.html" 'リダイレクト先のURL
    Dim Keyword As String = "pass" '不正アクセス防止用のキーワード
    Dim onOff As String = "on" 'メールに添付する場合の出力先
    '... (remaining code)
```

KeyWordの値を秘密の合言葉として設定します。

| A | B | C |
|----------|----------|-----------------------|
| 訓練対象ユーザ名 | 特定用キーワード | 作成したWordファイルの保存先ファイル名 |
| 1 テスト 01 | user01 | test01 |
| 2 テスト 02 | user02 | test02 |
| 3 テスト 03 | user03 | test03 |
| 4 テスト 04 | user04 | test04 |
| 5 テスト 05 | user05 | test05 |
| 6 テスト 06 | user06 | test06 |
| 7 テスト 07 | user07 | test07 |
| 8 テスト 08 | user08 | test08 |

apps=xxxxのxxxxの部分に設定する値を記載します。
ここで設定したキーワードが個々のWord文書ファイルに埋め込まれます。

※Word文書ファイル一括作成時の注意事項

Webビーコンを埋め込んだWord文書ファイルの作成時には、aptkit.aspxへのアクセスが発生します。この際、aptkit.aspxが開封者情報メールを送信できる状態になっていると、生成する文書ファイルの数だけメール送信が発生することになります。

短時間で大量のメール送信が発生すると、SMTPサーバ側でSPAMメールを送信しているとみなされてアカウントがロックアウトされてしまうなどの弊害が生じることがありますので、Word文書の一括作成をする際には、一時的にaptkit.aspxへのアクセスができないようにしておくなど、メール送信が発生しないようにした上で作業を行うようにして下さい。

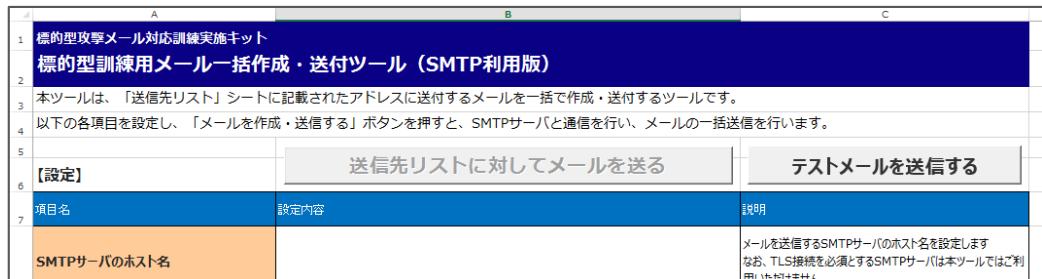
ユーザー毎にキーワードを変えてWord文書ファイルを作成するため、生成するWord文書は訓練実施対象となるユーザの数だけ生成することになります。

②生成したWord文書ファイルを添付した訓練メールの送信

ユーザ毎にapps=xxxxのxxxxの部分を変えたWord文書ファイルを、各ユーザー宛の訓練メールに添付してメールを送付します。

ユーザ毎に添付ファイルを変えてメールを送信する作業を手作業で行うのは大変であるので、キットではこの作業を一括して行うためのツールとして、

「メール一括送付ツール」を付属しています。このツールを用いることにより、ユーザ毎に添付するファイルを変えながら、訓練メールを一括送付することができます。



※メール一括送付ツールの使い方については、
ツールに付属の使い方の説明を参照願います。

【Word文書一括生成ツールと、メール一括送付ツールとの関係】

| A | B | C | D | E | F | G | H | I | J |
|-------------------|-------|-------|-------|------------------------------|-----------------|-------------|--------------|-------------|----------------|
| 送付先アドレス | 送付先氏名 | 敬称設定 | 送信結果 | 添付するファイルのパス | メールに添付するファイル名 | メールに記載するURL | 実際にアクセスするURL | ユーザ特定用キーワード | 不正アクセス防止用キーワード |
| hoge@kunrenkit.jp | 山田太郎 | 設定しない | 設定しない | c:\temp\wordtest\test01.docx | 保険料改定のお知らせ docx | | | | |

送付先のアドレスを
指定します。

メールに添付されるファイル名を指定します。
メール一括送付ツールでは、E列に記載されたファイルのコピーを作成し、
F列に記載されたファイル名にリネームしてメールに添付します。

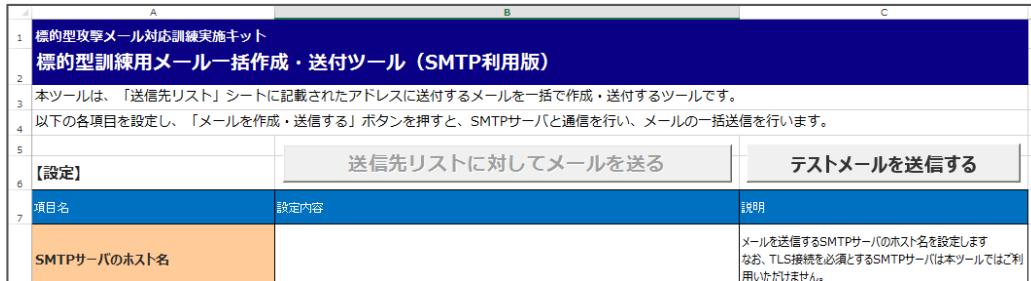
これにより、訓練メールに添付されているファイル名は同じだが、添付されているファイルの
中身はユーザ毎に異なる。ということを実現することができます。

| 訓練対象ユーザ名 | 特定用キーワード | 作成したWordファイルの保存先ファイル名 |
|----------|----------|-----------------------|
| 山田太郎 | user01 | test01 |
| 鈴木次郎 | user02 | test02 |
| 山本三郎 | user03 | test03 |

URLリンククリック型の訓練実施方法

URLリンククリック型の訓練の訓練を実施するには、「http://webサーバのアドレス/aptkit.aspx?user=xxxx&kwk=pass」形式のURLを記述した訓練メールを送付する形で実施します。

ユーザ毎にuser=xxxxのxxxxの部分を変えたURLリンクを記載したメールを送信する作業を手作業で行うのは大変であるので、キットではこの作業を一括して行うためのツールとして、「メール一括送付ツール」を付属しています。このツールを用いることにより、ユーザ毎にURLリンクを変えながら、訓練メールを一括送付することができます。



※メール一括送信ツールの使い方については、
ツールに付属の使い方の説明を参照願います。

【URLリンクの記述と、メール一括送付ツールとの関係】

| A | B | C | D | E | F | G | H | I | J |
|--------------------|-------|-------|------|-------------------------------|-----------------|----------------------------------|---------------------------------|--------------|----------------|
| 送付先アドレス | 送付先氏名 | 敬称設定 | 送信結果 | 添付するファイルのパス | メールに添付するファイル名 | メールに記載するURL | 実際にアクセスするURL | ユーザ特定用キーワード | 不正アクセス防止用キーワード |
| yamada@hogehoge.jp | 山田太郎 | 設定しない | | c:\temp\wordtest\user001.docx | 保険料改定のお知らせ.docx | http://hogehoge.jp/oshirase.html | http://hogehoge.com/aptkit.aspx | user=user001 | kwk=pass |
| 3 | | | | | | | | | |
| 4 | | | | | | | | | |

送付先のアドレスを指定します。

ファイル添付を併用すると、Word文書ファイル添付型や、
exe実行ファイル添付型の訓練と、URLリンククリック型の訓練を
ミックスした形式での訓練を実施することができます。

メール本文中に記載するURLを指定します。
訓練メールの送信形式がHTML形式である場合は、
G列に記載したURLが、メール本文に記載されている
URLとして、ユーザーには見える形になります。
メールの送信形式がテキスト形式である場合は、
G列の記載は無視され、H列の記載が使われます。

リンククリックにて実際にアクセスすることになるURLを指定します。
ここで指定するURLには、パラメータ文字列は記載しません。

実際のURLリンク先を隠ぺいする方法

URLリンククリック型の訓練で用いる「<http://webサーバのアドレス/aptkit.aspx?user=xxxx&kw=pass>」形式のURLを訓練メールに記載したのでは、メールを見る人によっては、このURLを見ることで、訓練であるとすぐに気づかれてしまう懸念が考えられます。

HTML形式のメールを用いることで、見かけ上のURLを変えることはできますが、URLにマウスオーバーすると、実際にアクセスする先のURLがわかつてしまうため、実際のURLリンク先を隠ぺいする方法として、短縮URLサービスを使うという方法があります。

キットでは、「<http://webサーバのアドレス/aptkit.aspx?user=xxxx&kw=pass>」形式のURLを、Googleが提供する短縮URLサービスのURLである、<http://goo.gl/>～の形式に一括変換する「短縮URL一括作成ツール」が付属しています。

| A | B |
|---|---------------------|
| 1 標的型攻撃メール対応訓練実施キット | |
| 2 goo.gl用 短縮URL一括作成ツール | 短縮URLを一括作成する |
| 3 本ツールは、Googleが提供する短縮URLサービスgoo.glを利用して、実際のURLを短縮されたURLに一括変換するツールです。
短縮URLを使うと、実際にアクセスすることになるURLの代わりに、短縮URLをメール本文中に記載すればよいため、訓練を受けるユーザー側に、訓練で使用しているURLを知られにくくなるという利点があります。
但し、ユーザーのパソコンからgoo.glのサーバにアクセスが発生することになるため、インターネットに接続できる環境でなければ、短縮URLを利用することはできません。 | |
| 4 また、本ツールを利用するには、Google APIキーの情報をB4セルに設定する必要があります。Google APIキーをお持ちでない場合は、「APIキーの取得と有効化」のシートを参照して、APIキー情報の取得と、APIの有効化を行ってください。 | |
| 5 | Google APIキー |
| 6 [本ツール利用に際しての注意事項] | |
| 7 短縮化したいURL（?から後ろのパラメータ部分も含みます） | 短縮URL |
| 8 http://hoge.co.jp/aptkit.aspx?use=user001&kw=pass | |
| 9 http://hoge.co.jp/aptkit.aspx?use=user002&kw=pass | |
| 10 http://hoge.co.jp/aptkit.aspx?use=user003&kw=pass | |
| 11 http://hoge.co.jp/aptkit.aspx?use=user004&kw=pass | |
| 12 http://hoge.co.jp/aptkit.aspx?use=user005&kw=pass | |
| 13 | |

短縮URLを作成したいURLを記述します。

※短縮URL利用時の注意事項

短縮URLは、実際のURLにリダイレクトするサービスであるため、短縮URLが使えるのは、インターネットに接続できる環境のみとなります。

インターネットに接続できない環境下で訓練を実施する場合は、短縮URLをクリックしてもgoo.glのサーバーにアクセスすることができず、リダイレクトができないため、実際のURLにアクセスさせることができませんのでご注意ください。

その他注意事項

SSLによる接続について

Webサーバーへの接続について、SSLによる接続を行いたいというご要望をいただくことがあります。

この場合、正式な証明書を用いてのSSL接続であれば問題はありませんが、自己証明書によるSSL接続はお使い頂いただけません。

自己証明書によるSSL接続では、SSL接続を行うに際して、接続を継続するかどうかのダイアログが表示されることになるため、接続をキャンセルされると aptkit.aspxへのアクセスが発生せず、開封したことを記録することができなくなってしまうためです。

認証プロキシが設置されている環境について

Webサイトへのアクセスに際しては認証プロキシを経由して行う環境となっていて、Webサイトにアクセスするかどうかを尋ねるダイアログを表示するようになっている環境の場合も、自己証明書によるSSL接続と同様、接続をキャンセルされると、aptkit.aspxへのアクセスが発生しないことになります。

セキュリティ対策ソフトによっては、警告が表示されるなどの動作となる場合があります

セキュリティ対策ソフトによっては、プログラムがWebサイトにアクセスを行うに際して警告を表示するようになっているものがあります。

これはセキュリティ対策ソフトが外部との通信を監視していることによって発生するもので、警告が表示されないようにすることはできません。

警告が表示されないようにしたいという気持ちはよくわかりますが、**警告が表示されることの意味について、訓練を受ける側が正しく理解しているかどうか**はとても重要なことです。警告の意味を正しく理解できていないがために、警告を無視して実行を継続してしまう人がいれば、それは組織にとって**人的なセキュリティホール**となってしまいますので、警告が表示されることを前提に訓練を実施し、警告が表示されても無視して実行を継続してしまう人がいるかどうかを確認することも重要なポイントです。